

育成

モノづくり人材

Vol. 9

新潟県立新津工業高校

新潟県立新津工業高校は「学ばう匠の技と心」をコンセプト



熊谷校長

に、教職員による少人数での実習やきめ細かな指導とともに、熟練の技能者からの指導、企業・職業訓練施設での実習に取り組んでい

名工が講師、日本建築科

える人材を育成する」と強調する。

日本の伝統的な木造建築に関する知識と技能を身に付けた人材を育成する「日本建築科」

【DATA】▷校長—熊谷秀則氏
▷所在地—新潟市秋葉区▷学科構成—工業マイスター科、生産工学科、ロボット工学科、日本建築科▷生徒数—469人（15年5月1日現在）▷実習設備—溶解炉、NCフライス盤、マシニングセンター、CAD/CAM、シーケンス制御実験装置▷主な進路先—北村製作所、クボ製作所、THK新潟、東芝ホームテクノ、日立産機システム、新潟原動機、住友林業ホームエンジニアリング、重川材木店、新潟大学、新潟工科大学、京都美術工芸大学など



日本の伝統的な木造建築を学ぶ日本建築科の実習

対し「学びに終わりはない。謙虚に学び続ける姿勢が必要だ。地域や新潟県を支える人間になってほしい」と訴える。

熊谷校長は「今後も産業界からの要望を受け止めながら、必要とされる人材を育ていく」と二ノズに合致した人材を育成する考えを強調する。その上で「当校の卒業生を積極的に採用してもらい、長いスパンで育ててほしい」と産業界に要望する。

（新潟支局長・中沖 泰雄）
（金曜日に掲載）

名工らを特別講師として任用しているほ

と、機械加工に重点を置く工業マイスター科、制御技術に重点を置くロボット工学科がある。工場見学やインターンシップ（就業体

が、熊谷校長は生徒に

建築組合、新潟県建築士会、新潟県建設業協会、にいがた住宅センターといった業界団体と連携する。産業界基礎を学ぶ生産工学科

めには業界団体との連携は必要不可欠だからだ。日本建築科以外には機械加工と制御技術の基礎を学ぶ生産工学科

めには業界団体との連携は必要不可欠だからだ。日本建築科以外には機械加工と制御技術の基礎を学ぶ生産工学科